

論 点 (案)

注) 第 1 回検討会で提示した論点メモの 1、2 に第 1 回検討会の討議内容の骨子を追加した。
(追加部分は下線で示した。二重下線は訂正部分)

1. 看護系大学における看護系人材教育内容の明確化について

- ・平成 16 年に示した「卒業時の到達目標」の見直し
- ・「看護学教育」の概念、または、コアとなる教育内容

2. 保健師助産師看護師三職種の免許取得に必要な教育内容を体系化して教授する学士課程における看護学教育の在り方について

- ・導入時から現状にいたる統合化したカリキュラム制度の変遷

- ・統合化したカリキュラムの利点と課題

利点：すべての看護職に必要な基礎的能力を、体系的に教育
多様なキャリア選択が可能

課題：過密なカリキュラム

学習時間・内容の不足

3. 新たな看護学教育の在り方とその質の保証の在り方について

- ・モデル・コア・カリキュラムの導入と教育の質の担保
- ・大学設置基準上の専任教員数などの構造基準の評価
- ・分野別評価の導入による看護学教育の質保証

4. 大学院における高度な職業人養成の在り方について

- ・学部教育と大学院教育の分担
- ・大学院における保健師・助産師養成の在り方

大学における看護学教育の特色

平成16年に開催した看護学教育の在り方に関する検討会（第二次）では、学士課程の教育課程について、看護実践能力の卒業時到達目標を示した（別添参照）。また、到達目標の設定にあたり、教育課程の特色を以下の5点に整理した。

- ・ 保健師・助産師・看護師に共通した看護学の基礎を教授する課程であること。
- ・ 看護生涯学習の出発点となる基礎能力を培う課程であること。
- ・ 創造的に開発しながら行う看護実践を学ぶ課程であること。
- ・ 人間関係形成過程を伴う体験学習が中核となる課程であること。
- ・ 教養教育が基盤に位置づけられた課程であること

看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標

(平成16年3月 看護教育の在り方に関する検討会報告)

○卒業時到達目標とした看護実践能力の構成

区 分 看 護 実 践 能 力

I 群
ヒューマンケアの
基本に関する実
践能力

- 1 人の尊厳の重視と人権の擁護を基本に据えた援助行動
- 2 利用者の意思決定を支える援助
- 3 多様な年代や立場の人との援助的人間関係の形成

II 群
看護の計画的な
展開能力

- 4 看護の計画立案・実施・評価の展開
- 5 人の成長発達段階・健康レベルの看護アセスメント
- 6 生活共同体における健康生活の看護アセスメント
- 7 看護の基本技術の適確な実施

III 群
特定の健康問題
を持つ人への実
践能力

- 8 健康の保持増進と健康障害の予防に向けた支援
- 9 次代を育むための援助
- 10 慢性的疾病を持つ人への療養生活支援
- 11 治療過程・回復過程にある人への援助
- 12 健康の危機的状況にある人への援助
- 13 高齢期にある人の健康生活の援助課題の判断と支援
- 14 終末期にある人への援助

IV 群
ケア環境とチーム
体制整備能力

- 15 地域ケア体制の充実に向けた看護の機能
- 16 看護職チーム・保健・医療・福祉チームでの協働・連携
- 17 ヘルスケア提供組織の中での看護の展開

V 群
実践の中で研鑽
する基本能力

- 18 看護実践充実に活かされる研究成果の収集と実践への応用
- 19 看護実践を重ねる過程で専門性を深める方法の修得